JRTU
No.25
2023.9.8

『つ～つら通う』

九州旅客鉄道労働組合
中央本部　佐賀支部
〒840-0805
佐賀県佐賀市神野西
１丁目889-4
NTT0952-29-7509

発行人　森永　克章
編集員　岩坪　姿佳

JR九州労組30周年記念行事

＝佐賀支部から3名が参加＝

9月7日、福岡市内においてJR九州労組の結成30周年記念行事が開催されました。当日は、支部・地本の代表者だけでなく、日頃からJR九州労組と交流のある労働組合の代表者や国会議員、歴代の中央執行委員長、会社関係者（JR九州）等、総勢120名が参加しました。佐賀支部からは、森永克章執行委員長、佐藤裕介執行副委員長、西村誠書記長の3名が参加しました。

記念行事は2部に分かれており、第1部はシンポジウム（講演・パネルディスカッション）、第2部は記念式典が開催されました。

会場には多くの関係者が参集

パネルディスカッションの様子

JR産業の持続的な成長に向けて

第1部は、大分大学経済学部の大井尚司教授から「九州の鉄道と地域公共交通に関する昨今の状況とJRへの期待」、南阿蘇鉄道株式会社の草村大成社長から「南阿蘇鉄道の復旧と今後の利用促進について」という内容で講演がありました。

その後はJR九州の上符友則地域戦略部長とJR九州労組の吉田春菜政策部長が加わりパネルディスカッションが開催されました。地方交通に関する課題認識の共有や、鉄道の今後の方向性について提起され、参加した皆で鉄道の未来について考える良い機会となりました。

大分大学大井教授による講演

皆で協力・連帯し未来を切り拓こう

第2部は、関係団体の代表や関係者から順に祝辞を受け、最後に中央本部の大久保浩書記長から「未来への誓い」として決意が述べられました。

【未来への誓い】（要旨）

JR産業で働く者は、グループ会社や関連・協力会社も含めれば数十万人に及ぶ。働く者、産業を支える最大の財産である人材に光を当て、JR産業が今後更に社会・経済の役に立つ可能性のある産業であることを社会にしっかり示していく。

私たち労働組合は、働く者の立場から、産業にしっかりと向き合い、次なる30年を見据え、強くしなやかなJR産業をつくっていく。JR九州労組として責任ある組織と運動をつくり、展開し、これからも皆と共に歩んでいく決意である。

組織を代表して挨拶する
吉田祥司中央執行委員長

「未来への誓い」の宣言を
行う大久保浩書記長